

避けんとするものをアンチ・ユニオン・シヨツプと名づけられてゐる。尙其れ程でなく工場主は労働組合の團結権を尊重し、出來得る限り組合の援助を圖り、新たに労働者を雇入れる場合に若し候補者たる二人の労働者にして一人は労働組合員で、他は然らざる際に此等のものが同一程度の技術能力を有する場合には労働組合員を採用するを契約する事をプリフェレンシャル・クローズド・シヨツプと云ふが之れは嚴格なる意味でのクローズド・シヨツプではない。なせなれば工場主が單に労働組合に好意を持つて居つても、又なるべく労働組合員を使用する努力をせん事を明言しても、之は單に工場主側の任意の一方行為で、そうしない場合でも労働組合は如何にもなし得ないのであるからクローズド・シヨツプにはならない。ク

ローズド・シヨツプは唯に工場主が労働者の團結権及其の論理的歸結である集合契約を能く理解して労働組合以外の労働者は使用しないことを明言實行しつゝある事が重要な要素である。

(三) クローズド・シヨツプの起源と發達

クローズド・シヨツプは普通主として米國の労働組合が主張する組合政策の様に考へられてをるが、之れは決して米國に起源を有するものでもなく、且つ近時の發達でもないので昔時から存在して居つたものである事はストツクトンが説く通りである。そしてウエブは労働組合政策としての此手段は労働組合運動の起るご同時代に主張せられたばかりでなく、其以前に於ても此要求は宣明せられたも